

ふるさと秋田元気創造プラン



平成22年4月から
このプランがスタートしました！
私がお話しします。



秋田県マスコット スギッチ

秋 田 県

プランって何ですか？

このプランは、みなさんと一緒に「ふるさと秋田」をもっと元気にするために、県が特に力を入れていくことをまとめたものです。

はじめに、みなさんが大人になる「10年後のふるさと秋田の姿」をイメージしてみました。

そして、その姿を実現する上で、解決しなければならない課題に、この4年間(平成22年度～平成25年度)で、どう取り組んでいくのかを示しています。

ふるさと秋田



秋田県の課題は何ですか？

秋田にはいろいろな課題がありますが、特に解決すべき重要な課題は3つあります。

1 人口減少と少子・高齢化

県では毎年1万人以上人口が減少し、子どもや若い人が減って高齢化が進んでいます。地域の元気づくりは人口を増やすところからはじめる必要があります。

2 経済・産業

世界の経済状況が悪化して、秋田でも多くの人が仕事を失うなど厳しい状況が続いています。多くの人が秋田で働けるように産業を強くする必要があります。

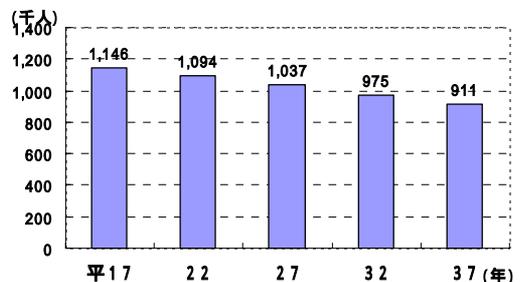
3 生活への不安

高齢化が進む中で、住民の健康な生活を支える医療の役割がますます重要となっています。

また、住民の半数以上が高齢者となる地域が増えて地域の元気がなくなってきました。

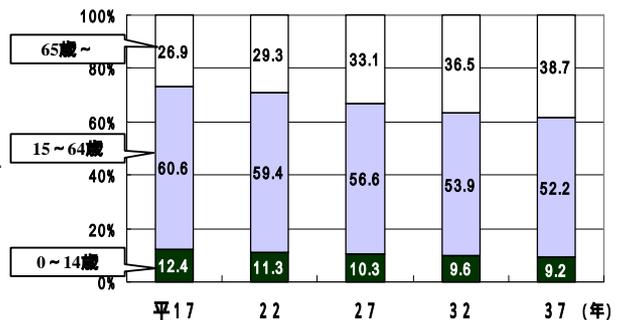
安心して暮らせるような地域づくりを進める必要があります。

将来推計人口の推移



資料)平成17年国勢調査
平成22年以降は国立社会保障・人口問題研究所発表資料による

年齢3区分別人口の割合の見通し



資料)平成17年国勢調査
平成22年以降は国立社会保障・人口問題研究所発表資料による

10年後のふるさと秋田の姿

秋田には課題だけではなく未来につながる

「可能性」があります。

10年後、みなさんが「ふるさと秋田」に誇りをもって元気に暮らしている姿をイメージしました。



1 強みを生かした産業が躍動している秋田

風車や太陽光パネルなどが立ちならび、国内でも有数の環境にやさしい新エネルギーの産出県となっています。

世界最先端の鉱山技術をいかして東アジアを代表する環境・リサイクルの総合拠点となっています。

秋田に進出したエコカー工場などの産業が、地域の経済を引っ張り、秋田から最先端技術を世界に発信しています。

そこには誇らしげに働く人たちがいます。

整備された港は、中国やロシアなどとの貿易の重要な玄関口となり、貿易交流がさかに行われています。



2 魅力ある“食の宝庫”秋田

農業と他の産業が一体となったビジネスが県内全体で展開されて農業をやるために移住する人が増えています。

とれたての秋田の食材やそれで作った商品などをたくさん積んで、県外にむけて貨物トラックが走り出します。

おいしい食べ物や温泉などを求めて、海外などからたくさんのお客さんが秋田を訪れ、それを笑顔で農家民宿のオーナーが出迎えています。



3 安心して子育てができる秋田

商店街のオープンカフェのとなりに子どもの遊び場とお年寄りの集まる場所があって、妊婦さんやお年寄りにもやさしい街並みになっています。

広場で、たくさんの友だちと元気に遊ぶ子どもを、笑顔で見守る若い夫婦は、子育てに幸せをいっぱい感じています。

お店では、子育て家庭にいろいろな割引サービスをしています。



4 安全・安心で、地域の活力あふれる秋田

地域の中心となっている病院の整備などが進んで、いつでもどこでも安心して医療を受けられる体制となっています。

一人ひとりの住民が、心や体の健康づくりに積極的に取り組むようになり、がんや自殺による死亡率が大きく減少しています。

自分たちの課題は、自分たちで解決しようという意識が高まって、地域が強い「絆(きずな)」で結ばれています。

地域の集会所などでは、元気なお年寄りたちが山菜、農産物、キノコの加工、わら細工といった「じっちゃん・ばっちゃんビジネス」で汗を流しています。



4年間で取り組む“秋田の元気”づくり

「10年後のふるさと秋田の姿」を実現するために、平成22年度からの4年間で“4つの元気”をつくっていきます。



**元気A：秋田ならではの強みをいかして
新しい産業をつくろう！**

地球温暖化など、世界中で環境問題への関心が高まっていますが、秋田には、環境にやさしい太陽光、風力などの自然エネルギーがたくさんあります。

それから、秋田では、昔から小坂鉱山などで、銅の製錬がさかんだったので、世界最先端の鉱山技術があります。

このような、秋田の持っているエネルギーや技術をいかした新しい産業をつくります。

また、近年、世界では中国やロシアなどがめざましい成長をとげていますが、秋田は、こうした中国やロシアのすぐ近くです。

こうした国々との貿易や交流を活発に行い、経済を活性化させていきます。

次のようなことに取り組んでいきます。

太陽光や風力、地熱などをエネルギーに変え、私たちの生活に使えるようにする会社を育てることに力を入れます。

電気自動車や航空機の部品製造ができる会社を応援します。

いらなくなった家電製品から貴重な金属(レアメタル)を回収する金属リサイクルの会社を育てます。

秋田の港を整備し、経済交流や貿易をさかんにします。



元気B：秋田の“食・農・観”を丸ごと売り出そう！



秋田を元気にしていくためには、秋田の^{みりょく}魅力をもっと知ってもらい、多くの人を秋田に^{よびこ}呼び込むことが必要です。

秋田には「きりたんぽ」や「^{いなにわ}稲庭うどん」などおいしい食べ物がたくさんあります。また、「あきたこまち」に代表されるお米やりんご・メロンなどをつくる農業もさかんです。

こうした秋田のおいしい食べ物をつくる農業や食品産業を^{ちいき}地域の観光に結びつけることで、県外や国外の人たちをたくさん秋田に^{よびこ}呼び込み、^{けいざい}経済や^{ちいき}地域を元気にすることができます。

このため、食品産業・農業・観光が^{いっしょ}一緒になって秋田の良いところを丸ごと売り出していきます。



県オリジナル品種「秋田紅あかり」



東京などでの「秋田フェア」開催

次のようなことに取り組んでいきます。

食品産業・農業・観光などが^{いっしょ}一緒になって、新しい商品の開発や^{はんばい}販売などを積極的に支援します。

秋田オリジナルのりんごやえだまめなどの産地をつくって生産日本一を目指します。

食べ物、自然、文化や物産、観光、秋田のプラスイメージなど、秋田を丸ごと売り出します。

^{おんせん}温泉や食べ物に健康、^{でんとう}伝統行事などを組み合わせた新しい観光メニューをつくって、^{けいざい}経済や^{ちいき}地域の元気につなげます。



元気C：一緒になって少子化を ストップしよう！

一年間に生まれる子どもの数は、平成10年の9,367人に対して、平成20年は7,421人と、大きく減少げんしやうしています。

一方、65歳さい以上のお年寄りの割合は、平成10年の21.9%から平成20年の29.2%と増加ぞうかし、高齢化こうれいかが急速に進んでいます。このままでは10年後には働く人1.5人で1人のお年寄りとしよを支えていかなければなりません。

秋田の元気づくりのためには、まずこの少子化の流れをストップさせることが必要です。

このため、結婚けっこんの応援おうえんや、仕事をしながら子育てしやすい環境かんきやうづくりを行うなど、いろいろな取り組みを県民と一緒いっしょに進めていきます。



次のようなことに取り組んでいきます。

いろいろな団体だんたいと一緒いっしょに少子化傾向けいこうを止めるために活動します。

出会いや結婚けっこんを応援おうえんする人を育てたり、団体だんたいの活動あつうんを応援したりします。

会社が子育てしやすい職場しよくばづくりに取り組んでもらえる仕組みをつくります。

働きながら子育てができるように保育施設ほいくしせつを増やしたりします。



元気D: みんなが安心して暮らせる
地域をつくろう!



【安心医療秋田】

秋田では生活習慣病(がん、脳卒中、糖尿病など)で亡くなる人の割合が高く、特にがんで亡くなる人の割合が全国で最も高くなっています。

また病院で働く医師が不足し、このままでは地域に必要な病院の機能が維持できなくなるところもでくる可能性ががあります。

食生活の改善などによる生活習慣病対策や、医師を増やしたり病院を整備したりする取り組みを進めて、安心して生活できるようにします。



次のようなことに取り組んでいきます。

住民一人ひとりが食事や運動など、毎日の生活習慣を見直すための取り組みを進めます。

がん検診を受ける人を増やすなど、がん対策に力を入れます。

医師を増やすために、医師をめざす学生を支援したり、医師が働きやすい環境づくりを進めたりします。

古くなった地域の中心的な病院を新しく整備したり、高度な医療機器を整えることを応援したりします。



【協働社会秋田】

人口減少、少子高齢化が進めば地域の元気がどんどんなくなってしまいます。

しかし、秋田にはまだ絆(きずな)や魅力のある伝統文化(根子番楽、白岩ささらなど)などが残っています。

それらをもう一度見直して、地域の再生や活性化を県民と一緒に進めたり、会社や大学などと協力する体制をつくって、地域の活力を生み出していきます。



根子番楽(国の重要無形民俗文化財、北秋田市)

白岩ささら(県の無形民俗文化財、仙北市)

次のようなことに取り組んでいきます。

県民が応援団となって農村地域を支える活動をするなど、県民・会社・大学が一緒に「元気なムラ」をつくります。

地域のおじいちゃんやおばあちゃんの経験をいかして、農林水産物や加工品をビジネスにする応援をします。

県と市町村やNPO(市民活動団体)などが一緒になって地域の元気づくりに取り組む組織や仕組みをつくっていきます。



みなさんへ

ここまで、「10年後のふるさと秋田の姿」と、それを実現するための「4年間で取り組む“秋田の元気づくり”」についてお話ししました。

みなさんにも将来の夢や思いがあると思います。そうしたみなさんの思い描く未来の実現に向けて、一緒に“秋田の元気づくり”を進めていきましょう。



担当 秋田県企画振興部総合政策課

URL <http://www.pref.akita.lg.jp>

Eメール seisaku@pref.akita.lg.jp

TEL:018-860-1217/FAX:018-860-3873